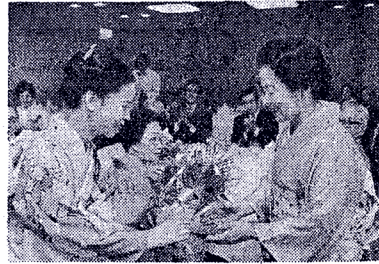


8年かけ「教典」著す

茶道の宗匠 仙台で出版記念会



茶道石州流清水派の教典ともいえるべき「清水動関註解・石州派三百篇」の出版を祝うパーティーが二日、仙台市の仙台ホテルであり、出版者の大泉淑子さん「写真」を祝福した。

同書は石州流の宗匠 大泉さん（仙台市清水小路）が、三百余年

前の資料を八年の歳月をかけて解読、併せて仙台藩の茶道の歴史もまとめて、このほど出版にこぎつけた。この日の出版記念会には、同書の出版に際して援助した約五十人が集まり、大泉さんの努力をたたえながら出版を祝い合った。

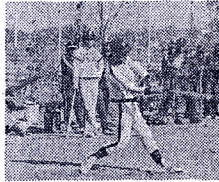
た「写真」。墨球とはソフトボールのこと。参加した中国人留学生のなかには「野球は初めて」とい

ながら、ホームランを打つ強打者もいて、ナインのかつぎいを浴びていた。



留学生も参加し「墨球大会」

仙台市と中国・長春市が友好（姉妹）都市を結んだのを記念して三日、仙台市の東北大片平丁キヤンパスで「墨球大会」が開かれ



この大会は「中国」日本語教材を送る会実行委員会」（大戸洋代表）と「中日中青年交流会」（相沢純一代表）が開いたもの。阿会の会員と東北大の中国人留学生ら約五十人が参加した。

東北大の中国人留学生は現在三十四人だが、野球やソフトボールをやったことのある人は「一人か二人ぐらい」とのこと。「スポーツ大会を開くのは今度が初めて。野球は日本で最も人気があるスポーツなのに、ルールも知らないようなので、手始めにソフトボールをやってみよう」と大戸代表

塩釜市内に初のテニスクラブがこのほど発足し、OLやママさん会員などなかなかの盛況だ。名称は塩釜青葉ローンテニスクラブ（佐藤幹雄会長）。同市尾島町の水産会館近くに全天候型の硬式コート二面をオープンしたが、これまで同市内はスポーツ施設に恵まれず、テニス愛好家は仙台市や隣の七ヶ浜町のコートに出掛

けていただけに予想を上回る反響が。クラブは会員制だが、既に会員数は八十人になり、特に女性会員の数が目立って多い。

コートの周囲は山やアパートで風の影響が小さいのも魅力。オーナーの材木業鈴木浩三さん（三）は「テニスファンの要望が強く、製材所跡をコートにしたが、こんなファンから喜ばれるとは思わなかった」と語っている。